ともかき

発行所
東京都立三田高等学校
青葉会
（同窓会）
港区三田1丁目4番46号
電話（453）1991㈹

青葉会の皆さんへ

名誉会長
学校長　杉村　親一

ご支援に感謝して

六月になると、私の家の庭の大輪の紫陽花が群れ咲いて、つゆ空に、ひときわ色彩を添えてくれます。

青葉会の皆さんには、ますます健勝で、各方面にご活躍のこととお慶び申しあげます。日ごろから、母校三田高校に対して温かいご支援をお寄せいただきありがとうございます。

特に昨年は、十月二十八日、本校創立満五十年の記念式典並びに祝賀会の開催に際し、皆さんから、物心両面にわたって絶大なるご支援をたまわり、お蔭をもちまして、おおぜいの方々のご参会を得て予想を越える成果をおさめ、学校の歴史に、みごとな一ページを飾ることができました。

栄光をかみしめて

祝賀会には、老若とりどりの会員の皆さんにまざって、かって本校に籍をおかれた先生方がおおぜいお元気な顔を見せてくだされ、昔話しに花を咲かせ、また旧交を温めるなど終始、なごやかな楽しい時間を過ごし、短い秋の日がいっそう短く思われました。

私は祝賀会のご挨拶の中で、「この学校を築いてくださった、いわば五十年の歴史の中に登場してくる歴代の恩師先輩、同窓生の皆さんが多数お出くださったことは何よりもうれしいことです。近年、生徒数が少なくなって、日ごろ淋しい思いをしておりました我が家に、久々にパッと灯がついて明るくにぎわい、なにか心強さを感じます。と同時にあらためて五十年という歴史の重みを感じます。私は今春四月本校に着任し、この記念すべき年にめぐりあわせ、今日の日を迎えた光栄をかみしめています。」と卒直な感想を申し述べましたが、三田高校に対して限りない愛着と温かい期待を寄せてくださっている卒業生と旧職員の皆さんの真心に接した思いでした。青葉会の皆さんありがとうございました。この紙面をお借りして厚くお礼を申しあげます。

母校百周年へ向って

母校も、昨年めでたく、創立五十周年を迎え、秋には、盛大な記念祝典行事が催されました。その日、当時ご担任いただいた諸先生、諸先輩と親しくお会いでき、また多数の友人と語らって、私も、本当に久しぶりに懐かしい母校を訪れましたが、在学当時と全く趣を変えた周辺の街並と、すっかり近代的に建て代った明窓浄机の校舎には唯々、目を見張るおもいの中に嬉しいことに、かの「オセンチ山」が校庭の一角にそそりたち、以前の姿のまゝ、快くわたしたちを迎えてくれ、心の故郷をようやく見出したような安堵を覚えました。単純素朴、そして多感であった青春のある日々をまざまざと彷彿させてくれました。わたしたちの通学した四年間は、まだ敗戦の痛手も完全に癒えない、とても苦しい時代ではありましたが、

オセンチ山が招く
―会長に就任して―

青葉会長　石田　弘

たい倖せと、現在でも、感謝の念を持ち続けているわけです。

さて、このたび、母校における、最初の男子卒業生との記念行事を盛大に行うことができました。さらに記念文庫のご寄贈まで頂き本当にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

私共教職員一同も心を新たにして創立五十一年目を迎えて本校定時制の発展を心に誓っております。

本年は中学校卒業生が昨年に比べて約一万人もふえたためか、定時制への入学者が例年になく多くなり募集定員に対する充足率は全都的にみますと約84%という高率でありました。しかし地域的な差が著るしく、本校のような都心部の学校は昨年と殆んど変らないありさまです。しかしながら本年度も各学年とも必要な生徒数は確保できましたので、学級数も本年同様、来年も八学級を維持することができる見込みです。これも青葉会の皆様のご助力のおかげと深く感謝しております。

ここ数年間は中卒者の自然増が予想されますので現状維持は可能かと思われますが、四囲の状勢はなかなか厳しいものがあり、定時制の統廃合問題はこの一、二年の間に具体化されるものと思われます。

皆様もご承知のように昭和五十七年度から高校の教育課程の改訂が行われますが、私共も全校をあげて衆知をあつめて魅力ある学校づくりに取組んでおります。本校の特色をいかし一人一人の生徒の学力をのばす個別指導に工夫をこらして、多くの中卒者が進んで本校を志望するように努めていくつもりです。

その際に私共にとっての大きな心の支えになるのは卒業生の皆様の存在です。五千名近い青葉会々員の皆様の存在が私共の使命感をかきたて、皆様方の母校を守り育てていかねばと心を奮いたたせてくれるのです。これからもあたたかいご支援を切にお願いいたします。

母校の発展のためご支援を

名誉副会長
教頭
久保道雄

昨年は皆様の絶大なご協力のお陰で、本校創立五十周年を展開し、三田高校発展の歩みを進めなければならないと考えております。青葉会の皆さんの温かいご支援をお願いいたします。

長さんが交替されました。富川前会長から石田新会長へ、さわやかなバトンタッチ―四千七百名の会員の拍手がきこえてくるようです。

伝統は歴史の集積です。最初に蒔いた種子が幹となり、幹はそれに加わる歴史によって伸びます。その成長は風雪によって廻り道することもあり得ましょう。しかし、幹は飽くまで幹として、どこまでも伸びてゆくのです。半世紀にわたって皆さんが培ってくださった三田高校の輝しい伝統と、新しい時代の新しい方向とをいかに調和させ伸ばしてゆくか、それが私どもに与えられたこれからの課題でありましょう。

八十年代を迎え「国際化時代」の論議が花ざかりです。私たちは、国際化への認識に立って職員も生徒も心を新たにしていっそう充実した活動またそれなりに楽しいことも数多あり、美しき想い出は限りがありません。特に、心を許し合える友人を何人か持ち得たことは、なによりも得難うことで(?)、会長という大任を、仰せつかることになりました。機関紙「ともがき」の年一回発行、より正確な会員名簿の作成、はたまた、会の運営費の問題等、諸先輩方はじめ、会員のみなさまのご協力を得ながら、力不足ではありますが、鋭意努力するつもりでいますので、よろしくご指導をお願いいたします。

最後に先生方はじめ、青葉会会員並に、諸兄姉のご健勝と、母校の限りなき発展を、心より祈念するものであります。

（昭和二十九年卒
石田技研社長）

ユニークなグループ・社内・団体旅行の企画は
誠実で迅速な太平観光へ

東京都知事登録国内旅行業第741号
運輸大臣指定（社）全国旅行業協会保証社員

太平観光株式会社

〒177　東京都練馬区東大泉7－38－9
電話　(924)1911㈹・1863・1825
(925)0131
振替口座　東京 76561